



株主の皆様へ

第3期 中間期のご報告

(平成19年4月1日～平成19年9月30日)



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当中間期における日本経済は、原油価格が高騰、高止まりする中で、全体として拡大基調にある海外経済に支えられた輸出の増加や、設備投資の増加、底堅い個人消費等により、緩やかに拡大を続けました。当社グループの事業環境につきましては、原油・ナフサ価格が高値圏で推移する状況にありましたが、国内外の堅調な需要に支えられ、概ね良好でありました。

当社グループの当中間期連結業績につきましては、その詳細は次頁以降に記載の通りであります。原燃料価格の高騰に伴う製品価格の是正等により、売上高は1兆3,898億円となりました。また、利益面では、営業利益は664億円、経常利益は705億円、当期純利益は381億円となりました。このような状況等を踏まえ、当期の中間配当金につきましては、前期に比べ1円増配し、1株につき8円とさせていただきます。

本年10月、当社の完全子会社であった三菱ウェルファーマが田辺製薬と合併し、上場子会社である田辺三菱製薬が発足するとともに、三菱樹脂が当社との株式交換により当社の完全子会社となりました。また、当社保有の自己株式約4億3千万株の取扱いについて検討してまいりましたが、本年10月、このうち3億株を消却するとともに、今後の戦略的投資や有利子負債の返済等の資金調達を目的に、総額1,400億円のユーロ円建転換社債型新株予約権付社債を発行いたしました。当社グループは、現在、新たな中期経営計画を策定中ではありますが、将来の成長、飛躍に向けて、今後も成長戦略を遂行していくとともに、経営基盤の強化に積極的に取り組み、企業価値の一層の向上に努めてまいります。

なお、田辺三菱製薬に係るC型肝炎問題につきましては、株主の皆様にご心配をおかけしておりますが、同社は、この問題に誠実に対応していくこととしており、当社といたしましても、同社の対応を支持し、必要な助言等を行ってまいります。

当社グループは、今後もCSR（企業の社会的責任）活動の強化を図るとともに、コンプライアンス（法令・企業倫理の遵守）やリスク管理の徹底に努め、社会から信頼される企業グループを目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年12月

取締役社長 **小林喜光**

IRNAVI

ファイナルナビとは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をよりわかりやすく株主の皆様にご案内（道案内）していきたいという意味を込めております。

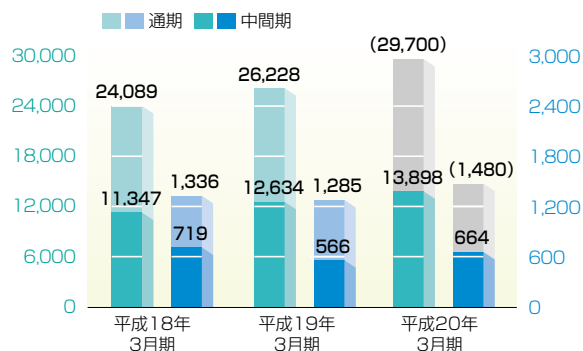
CONTENTS

| | | | |
|------------------------|---|------------|----|
| 株主の皆様へ | 1 | CSR情報 | 6 |
| 連結FINANCIAL HIGHLIGHTS | 2 | 財務諸表の概要 | 7 |
| セグメント別の概況（連結） | 3 | 会社概要・株式の状況 | 10 |

連結 FINANCIAL HIGHLIGHTS

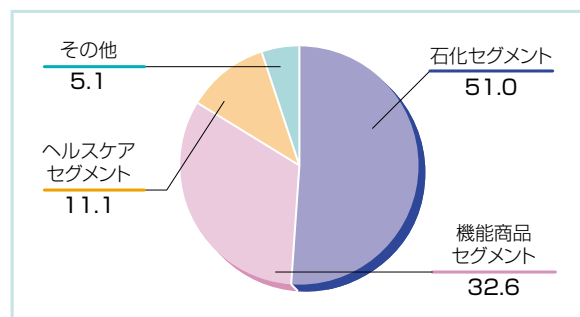
売上高・営業利益

(単位: 億円)



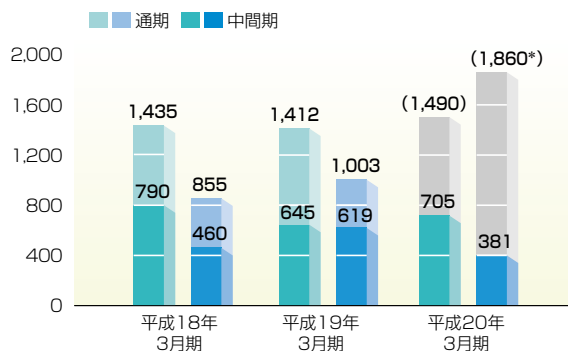
セグメント別売上高の構成比

(単位: %)



経常利益・当期純利益

(単位: 億円)



*特別利益として、医薬事業再編に伴う持分変動利益1,175億円を見込んでおります。

D/E(デット・エクイティ)レシオ

3.00

2.00

1.00

0

平成18年3月期 平成19年3月期 平成20年3月期(中間)

*D/Eレシオとは、自己資本に対する有利子負債の比率で、財務体質の健全性を表す指標の一つです。比率が小さいほど健全性が高いことを示します。

配当の状況

(単位: 円)

| | 1株当たり配当金 | | |
|----------|----------|-----|------|
| | 中間期末 | 期末 | 年間 |
| 平成19年3月期 | 7 | 7 | 14 |
| 平成20年3月期 | 8 | (8) | (16) |

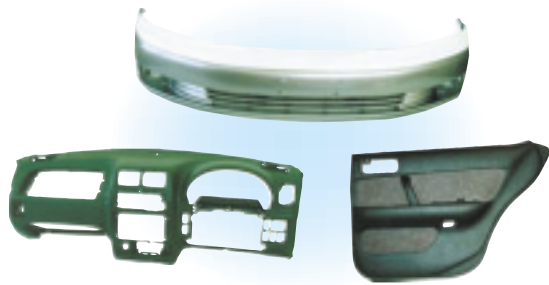
平成18年3月期の数値は、当社が平成17年10月に株式移転により設立されたことから、三菱化学の中間連結決算数値を引き継いだ連結決算数値を記載しております。なお、セグメント別の概況(連結)(3頁から6頁まで)に記載の数値につきましても、上記と同様であります。また、()内の数値は、平成19年11月2日の中間決算発表時点での予想数値であります。

セグメント別の概況(連結)

石化セグメント

基礎素材であるエチレンの生産量は、前年同期比3%増の63万5千トンとなりました。基礎石化製品、化成品、合成繊維原料、合成樹脂及び機能性ポリマーは、引き続き国内外の需要が好調に推移したことに加え、原燃料価格高騰に対応した製品価格の是正や海外市況の上昇もあり、売上げは大幅に増加しました。

以上の結果、石化セグメントの売上高は7,088億円となり、営業利益は、テレフタル酸の海外市況が弱含みで推移したものの、他の製品の市況が全般的に上昇したこと等により、170億円となりました。



ポリプロピレンを使用した製品例(自動車用材料)

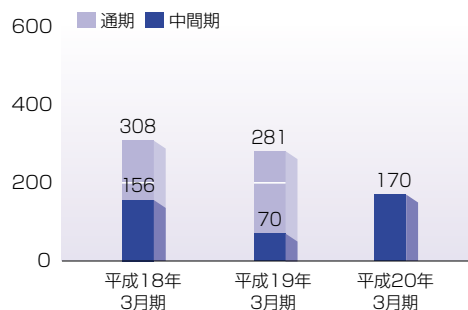


機能性樹脂を使用した製品例
(自動車用エアバッグカバー)

PTMGを使用した製品例

営業利益

(単位:億円)



主な実施施策

- 北京聚菱燕塑料社(中国)が、中国・広東省佛山市において、自動車向けに需要が増大しているポリプロピレンコンパウンドの製造設備の新設を決定(6月)
- 三菱化学パフォーマンスポリマーズ社(米国)が、自動車向けに需要が増大している機能性樹脂コンパウンドの製造設備(年産4,600トン)の増設を完了し、稼動を開始(7月)
- 三菱化学が、中国・浙江省寧波市大榭開発区において、衣料用途を中心に需要が増大しているポリテトラメチレンエーテルグリコール(PTMG)の製造設備(年産2万5,000トン)の新設を決定(8月)

機能商品セグメント

●機能化学

光ディスクは、販売価格が低下したものの、DVDの需要が引き続き好調であり、売上げは増加しました。OPCドラム、トナー等のプリンタ・コピー機関連材料は、販売数量が増加したものの、販売価格の下落により、売上げは減少しました。食品機能材は、引き続き順調に推移しました。コークスは、国内の鉄鋼需要が堅調に推移したものの、原料炭価格の低下に伴い、売上げは減少しました。

●機能材料

各種フィルム、複合フィルム及びシート製品は、液晶ディスプレイ用保護フィルム等を中心に引き続き好調に推移し、樹脂射出成型品等の情報電子関連向け製品及び炭素繊維、アルミナ繊維等の産業資材は、引き続き好調な需要等に支えられ、売上げを伸ばしました。

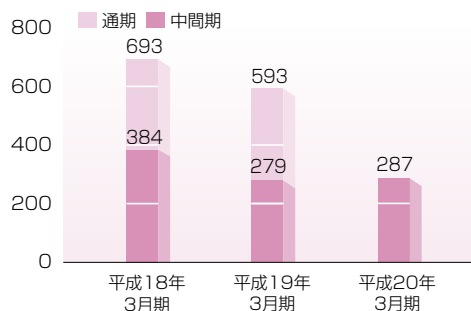
以上の結果、機能商品セグメントの売上高は4,544億円、営業利益は287億円となりました。



世界初のビデオカメラ用Blu-ray Disc
(三菱化学メディア)

営業利益

(単位:億円)



主な実施施策

- バーベイトム社(米国)が、スマートディスク社(米国)からポータブルハードディスクドライブ事業に係る資産を買収(7月)
- 三菱化学ポリエステルフィルムが、滋賀事業所において、フラットパネルディスプレイ向けに需要が増大しているシリコン離型フィルムの製造設備の増設を決定(7月)

三菱樹脂を完全子会社化

本年10月1日、三菱樹脂は、当社との株式交換により、当社の完全子会社となりました。今後、平成20年4月を目途として、三菱化学の機能材料事業を含めて、当社グループの機能材料分野の主要子会社である三菱樹脂、三菱化学ポリエステルフィルム、三菱化学産資及び三菱化学エムケーバイを当社の全額直接出資会社として再編・統合することとしており、ますます多様化、高度化、複合化するお客様のニーズに対応し、さらに高付加価値で競争力のある製品や技術の提供に努めてまいります。

セグメント別の概況(連結)

ヘルスケアセグメント

医薬品は、抗血小板剤「アンブラグ」や脳保護薬「ラジカット注」等の主力医薬品の販売数量が堅調に推移したことにより、売上高は前年同期を上回りました。診断検査事業及び創薬支援事業も、総じて順調に推移しました。

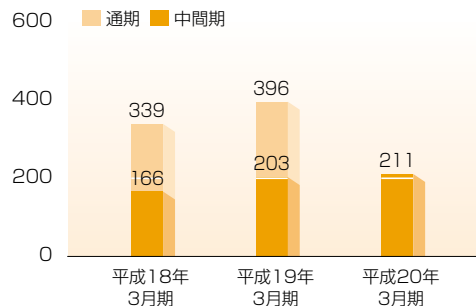
以上の結果、ヘルスケアセグメントの売上高は1,544億円、営業利益は211億円となりました。



抗血小板剤「アンブラグ」
(田辺三菱製薬)

営業利益

(単位:億円)



主な実施施策

- 三菱化学が、九州大学大学院医学研究院及び久山生活習慣病研究所と、脳梗塞のより良い治療・診断方法の開発を目指して、脳梗塞関連バイオマーカー*の解析・探索に関する共同研究を開始することに合意(7月)

*バイオマーカー：疾患の程度や、薬の効果等を定量的に把握するための客観的な指標

田辺三菱製薬が誕生

本年10月1日、三菱ウェルファーマと田辺製薬が合併し、上場子会社である田辺三菱製薬が誕生しました。田辺三菱製薬は、合併により拡大した事業規模と強化された経営基盤を最大限に活用し、グローバル新薬の創製と新たな事業機会への挑戦に向け、引き続き当社グループのヘルスケア事業の中核会社として事業展開を図ってまいります。

企業理念

医薬品の創製を通じて、
世界の人々の健康に貢献します

めざす姿

国際創薬企業として、
社会から信頼される企業になります

基本戦略

- 国際創薬企業の地位の早期確立
- 国内市場でのプレゼンス向上
- 特色ある製薬企業をめざす

ジェネリック医薬品事業への参入、個別化医療への取組み

田辺三菱製薬については、同社のホームページをご覧ください。
<http://www.mt-pharma.co.jp>



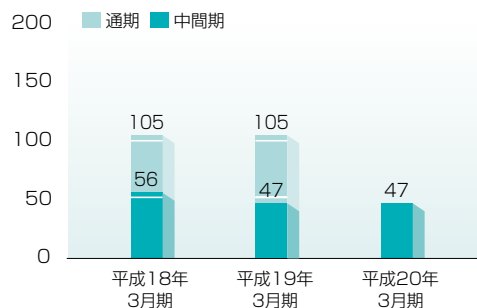
田辺三菱製薬

その他

エンジニアリング部門及び物流部門は、外部受注の増加により、それぞれ売上げは増加しました。

以上の結果、売上高は721億円、営業利益は47億円となりました。

営業利益 (単位:億円)



CSR情報

※CSR:Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任) の略

途上国の教育支援

当社グループは、平成18年5月に国連グローバル・コンパクト*に参加したことを契機に、地球市民として国際社会が抱える課題の解決に寄与すべく、途上国の教育支援を開始しました。国際NGO(非政府機関)「プラン」を通じて、ネパールと西アフリカ沿岸のシエラレオネにおいて校舎、井戸等の建設、備品・教材の整備、教育システムの指導等を行っており、シエラレオネにおいては既に新しい校舎で授業が行われています。一方、ネパールでは、天候等の理由で工事が遅れていますが、来春には工事が完成する予定です。今後も当社グループのこうした活動が、国連が掲げるミレニアム開発目標の1つである「初等教育の完全普及の達成」の一助となればと考えています。

*国連グローバル・コンパクト: 経済のグローバル化により、世界的規模で起こりうるさまざまな問題を解決するために、企業が一致団結して、地球市民の立場からその責務を果たそうとするもの



小学校校舎の外観と地域社会の皆さん(シエラレオネ)

財務諸表の概要

中間連結貸借対照表

(単位:億円)

資産の部

| 科目 | 当中間期 (平成19年9月30日現在) | 前期 (平成19年3月31日現在) |
|---------------|------------------------|----------------------|
| 1 流動資産 | 11,964 | 11,457 |
| 現金・預金 | 855 | 695 |
| 受取手形・売掛金 | 5,957 | 5,825 |
| たな卸資産 | 4,036 | 3,624 |
| その他 | 1,130 | 1,330 |
| 貸倒引当金 | △15 | △16 |
| 2 固定資産 | 12,089 | 11,730 |
| 有形固定資産 | 7,641 | 7,244 |
| 投資有価証券 | 3,300 | 3,360 |
| その他 | 1,148 | 1,125 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| 資産合計 | 24,053 | 23,188 |

1 流動資産

流動資産は、主に原料価格の高騰等によるたな卸資産の増加等により増加しています。

2 固定資産

固定資産は、設備投資の拡大に伴う有形固定資産の増加等により増加しています。

負債及び純資産の部

| 科目 | 当中間期 (平成19年9月30日現在) | 前期 (平成19年3月31日現在) |
|------------------|------------------------|----------------------|
| 流動負債 | 10,728 | 10,107 |
| 支払手形・買掛金 | 4,468 | 4,383 |
| 短期金融債務 | 3,586 | 3,276 |
| その他 | 2,672 | 2,446 |
| 固定負債 | 5,359 | 5,493 |
| 長期金融債務 | 4,069 | 4,120 |
| その他 | 1,289 | 1,373 |
| 負債合計 | 16,088 | 15,600 |
| 株主資本 | 6,596 | 6,311 |
| 資本金 | 500 | 500 |
| 資本剰余金 | 3,798 | 3,797 |
| 利益剰余金 | 3,509 | 3,220 |
| 自己株式 | △1,210 | △1,206 |
| 評価・換算差額等 | 860 | 810 |
| 新株予約権 | 4 | 5 |
| 少数株主持分 | 503 | 460 |
| 3 純資産合計 | 7,965 | 7,587 |
| 負債及び純資産合計 | 24,053 | 23,188 |

3 純資産合計

純資産合計は、配当金の支払い等がありましたが、中間純利益を計上したことにより増加しています。

中間連結損益計算書

(単位:億円)

| 科目 | 当中間期 | 前中間期 |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日) | (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日) |
| 売上高 | 13,898 | 12,634 |
| 売上原価 | 11,259 | 10,181 |
| 販売費・一般管理費 | 1,973 | 1,886 |
| 営業利益 | 664 | 566 |
| 営業外収益 | 194 | 200 |
| 営業外費用 | 153 | 121 |
| 経常利益 | 705 | 645 |
| 4 特別利益 | 20 | 69 |
| 特別損失 | 91 | 31 |
| 税金等調整前中間純利益 | 634 | 682 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 187 | 100 |
| 法人税等調整額 | 62 | △55 |
| 少数株主利益 | 2 | 18 |
| 中間純利益 | 381 | 619 |

4 特別利益

特別利益は、投資有価証券売却益の減少等により減少しています。

中間連結株主資本等変動計算書 当中間期(自平成19年4月1日 至平成19年9月30日)

(単位:億円)

| 科目 | 株主資本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 新株 予約権 | 少数株主 持分 | 純資産 合計 |
|-----------------------------|------|-----------|-----------|--------|------------|--------------|-----------|------------|-----------|
| | 資本金 | 資本 剰余金 | 利益 剰余金 | 自己株式 | 株主資本 合計 | | | | |
| 平成19年3月31日残高 | 500 | 3,797 | 3,220 | △1,206 | 6,311 | 810 | 5 | 460 | 7,587 |
| 中間連結会計期間中の変動額 | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △95 | | △95 | | | | △95 |
| 中間純利益 | | | 381 | | 381 | | | | 381 |
| その他 | | 0 | 2 | △3 | △0 | △0 | | | △1 |
| 株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額) | | | | | | 51 | △0 | 43 | 93 |
| 中間連結会計期間中の変動額合計 | — | 0 | 288 | △3 | 285 | 50 | △0 | 43 | 378 |
| 平成19年9月30日残高 | 500 | 3,798 | 3,509 | △1,210 | 6,596 | 860 | 4 | 503 | 7,965 |

財務諸表の概要

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

| 科目 | 当中間期 (自平成19年4月1日 至平成19年9月30日) | 前中間期 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日) |
|---------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 税金等調整前中間純利益 | 634 | 682 |
| 減価償却費 | 457 | 395 |
| たな卸資産 | △361 | △223 |
| 営業債権債務他 | 67 | △654 |
| 5 営業活動によるキャッシュ・フロー | 797 | 200 |
| 有形・無形固定資産取得 | △812 | △601 |
| 投資有価証券取得 | △54 | △47 |
| その他 | △18 | 140 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △884 | △508 |
| 有利子負債 | 243 | 452 |
| 配当金他 | △66 | △127 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 177 | 325 |
| 現金・現金同等物に係る換算差額 | 22 | 0 |
| 現金・現金同等物の増減 | 112 | 17 |
| 現金・現金同等物の期首残高 | 679 | 615 |
| 新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減 | 11 | 3 |
| 現金・現金同等物の中間期末残高 | 804 | 635 |

5 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前期末日が休日であったため、前中間期に比べ、当中間期の営業債権の増加が抑えられたこと等により増加しています。

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒108-0014
東京都港区芝四丁目14番1号
(三菱ケミカルホールディングスビル)
電話 03-6414-4800

資本金 500億円

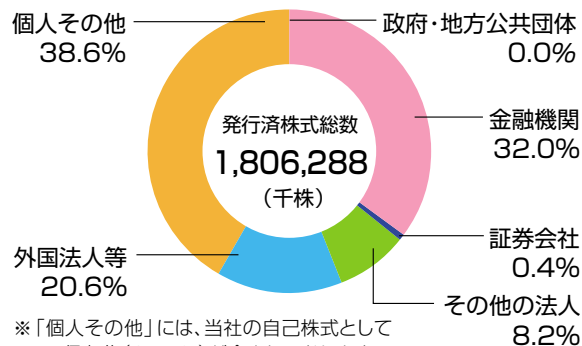
株式の状況

会社が発行する株式の総数 …………… 6,000,000千株
発行済株式総数 …………… 1,806,288千株
株主総数 …………… 162,795名
大株主

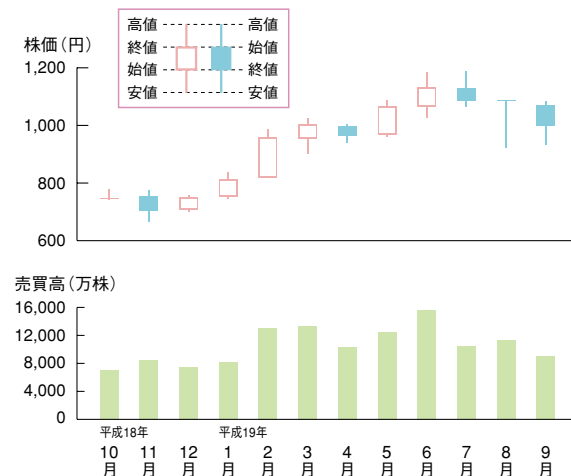
| 株主名 | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|------------------------------|---------|---------|
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社信託口 | 63,396 | 3.5 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 60,644 | 3.3 |
| 武田薬品工業株式会社 | 51,730 | 2.8 |
| 日本生命保険相互会社 | 49,428 | 2.7 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 48,828 | 2.7 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 42,312 | 2.3 |
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口 | 38,060 | 2.1 |
| ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー | 32,825 | 1.8 |
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口4 | 28,926 | 1.6 |
| 太陽生命保険株式会社 | 23,547 | 1.3 |

※上記のほか、当社が保有する自己株式が436,796千株ありますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有しておりません。

所有者別株式分布の状況



株価及び株式売買高の推移(東京証券取引所)



自己株式を消却

当社は、本年10月31日付で自己株式を300,000千株消却いたしました。これにより、当社の発行済株式総数は、同日現在で1,506,288千株となっております。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1)定時株主総会 3月31日 (2)期末配当金 3月31日 (3)中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞に掲載いたします。
◎公告掲載URL (<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

郵便物送付先及び
電話お問合せ先 東京都江東区東砂七丁目10番11号(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル 0120-232-711

住所変更、配当金振込指定・変更、
单元未満株式買取請求に必要な
各用紙のご請求は

(株主名簿管理人の
フリーダイヤル)

0120-244-479

※自動音声で24時間承っております。

当社は、インターネットにホームページを開設し、最新の企業情報を幅広く提供しております。

〈ホームページアドレス〉

<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp>